

ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者  
小教区評議会役員、広報部担当者各位

## 2019年 小教区評議会役員研修会報告

2019年7月  
福音宣教企画室

- テーマ：社会への福音宣教 ―小教区共同体としての SNS の利用について―
- 対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員、小教区広報部担当者
- 講師：土屋至氏（SIGNIS JAPAN 代表、聖パウロ学園高校講師）、一場修神父（マリスト会）
- 日時：2018年5月25日（土） 13：00～16：00
- 場所：カトリック京都司教区 河原町教会・ヴィリオンホール
- 参加人数：103名（信徒99名、司祭・修道者4名）
  
- 内容：講話（一場修神父、土屋至氏）、質疑応答

### 一場神父講話の要旨（資料参照）

信者として、教会共同体として、コミュニケーション・広報・インターネット、その中のツールである SNS について、教会としてどうかかわっていくかを、世界広報の日や世界広報の日メッセージ（2016年・2019年）から学びたい。

インターネットや SNS を通して人と接しているといふ忘れてしまいがちになるが、コミュニケーションとは分かち合うことであり、発信するだけでなく、耳を傾けることが必要である。これは教会共同体内においても同じある。共同体内の実際の交わりにおいても、ネット上の交わりにおいても同様に、お互いに耳を傾けるといふ姿勢を持ち、ネット上のつながりであっても、あたたかみのある交わりである、神のいつくしみを伝えるものでなければならない。

### 土屋氏講話の要旨

- ・「情報の10の特質」「福音の10の特質」と“Good News”（資料参照）  
「情報の10の特質」から考えた「福音の10の特質」の紹介。また、身の回りで発見する“Good News”（キリスト教関係に限らない）を「Good News Collection」としてブログで紹介、蓄積し、シェアする（他の人と分かち合う）ということを行っている。ぜひ自分の生活の中で集めた“Good News”を、SNSを通してさらに多くの人とシェアしてほしい。
- ・個人や団体の Facebook の紹介
- ・次回の交流会で“Good News”を持ち寄ってシェアしてほしい、また教会等でも分かち合う場を作してほしいと思う。それはそれぞれの生き方を分かち合うことに通じ、それが教会共同体になる。SNS はそれを補完するための道具であって、人格と人格が会う分かち合いの場を作ることが本当のいのちになると考えている。

## 質疑応答（回答：土屋氏）

・教会では高齢者も多く、インターネットや SNS を使えない人もいるが？

⇒インターネット上（SNS 上）でシェアされている内容を、普段の分かち合いの場でも同じように分かち合うことで一部の人だけでなくみんなで分かち合い、共有することができる。また、ネットや SNS が使えるようになると世界が広がるということを伝え、丁寧に使い方を説明したい。

・SNS の効果は認識しているが、炎上や個人間のトラブルも見かける。リスクについてどう考えるか？

⇒リスクについて知ることはもちろん大切であるし、同時に失敗から学ぶこともある。

（※SNS のリスク管理について、9月の役員交流会で内容として扱う予定です）

## 研修会のふり返り（一場神父）

土屋氏の講話から「分かち合い」が大切だということを学んだ。共同体の中には SNS を使える人と使えない人がいるが、使えない人が分かち合ってくれる“Good News”を、SNS 等を使って外に伝えたり、部会等の組織を通して“Good News”を集めたりすることも使命の1つかもしれない。個人で SNS を使って福音宣教をすることも大事だが、自分たちの共同体でどんな良い知らせ（Good News）があるか、それぞれが毎日どう福音を生きているのかということをつり返ったり、それがどう分かち合われているかふり返るきっかけになると思う。

SNS の使用について問題があることも指摘されたが、その問題がなぜ起こったのか、なにが問題だったのかをふり返ることも大事である。良い知らせを持ち寄って分かち合う、そのプロセスによって、より共同体になっていったら素晴らしいし、小教区に持ち帰り、9月の交流会まで取り組めたらと思う。

## 大塚司教のコメント

“Good News”の広がりについて、新約聖書の成り立ちを思い出した。共同体からの個別な内容の質問に対してパウロが書いた答えが、普遍的なメッセージであるので、他の教会にも教えてあげようとあちこちの町に広がった。そうしてたくさんの手紙や福音書があったが、新約聖書のリストを決めるとき、聖霊が働いて識別し、正典となるものを選んだ。そうやって、どうしても後世に伝えたいメッセージだけが淘汰されていくのはどの時代でも同じである。小教区共同体で SNS をする場合は個人で発信するのとは異なるが、信仰の感覚を大切にしながら、教皇や司教だけでなく全信徒に働く聖霊に信頼して、その識別によって、試みることを大切にしてほしい。教区としてもまだ手探りなので一緒に学んでいきたい。

## 福音宣教企画室のふり返り

時代の流れを受けて、教会も SNS への取り組みに関心を持つことも必要と考え、今回の内容を企画し、合わせて、広報部の方々にも参加のお声かけをすることにしました。アンケートでは、小教区での SNS 運営について「がんばってやってみよう」など思いのほかポジティブな声も多く、しかし実際に団体としてどのように運営したら良いか、またリスクを懸念する声が多かったのも事実です。また“Good News”の分かち合いも多く印象に残ったようでした。秋の交流会では、実際に小教区として SNS を運営するかどうか考えるヒントになるように、具体的な運営の事例を紹介し、持ち寄っていただいた“Good News”を分かち合って、チームで発信するメッセージ作りのプロセスを体験するなどの内容を考えています。そのためにも、交流会までに小教区でふり返りや“Good News”集めをしていただければ幸いです。